

# 平和の大切さを伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内各公立中学校の生徒代表8人を含む13人の平和使節団が参列し、原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげました。

また、各中学校、女性団体連絡協議会、青年会議所、市役所職員そして市役所に来庁した方々、それぞれが平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5000羽)を公園内にある「原爆の子の像」にささげました。

岡総務課 (☎826・1111 内線2200)



土浦市地区長連合会 副会長  
近藤 修さん

平成20年8月6日、8時15分「平和の鐘」を全国に4万5000人の参列者が起立し、1分間の黙とうをささげました。この厳粛な雰囲気は、参加者の祈りや願いが一つになつていくことを強く感じました。

前日に平和記念資料館を見学し、原爆による被害には、放射線によるもの、熱線によるもの、爆風によるものがあり原爆の恐ろしさ、悲惨さを写真や実物を通して痛切に感じ、平和への願いが言葉や理屈ではなく、体で感じることができたからです。

そして、未だに原爆症で苦しんでいる多くの方々を思うときに、戦争と核兵器の廃絶への願いを一層強く感じずにはいられません。

しかし、時を経て、忘れてはならない原爆の記憶や核兵器に対する怒りは、年々人の心から薄れていきます。だからこそ、派遣された私たちは、この貴重な体験をそ

れぞれの立場で語り伝えていくことこそが、役目であると感じております。



土浦市女性団体連絡協議会  
峯村きみ子さん

土浦市平和使節団として参加させて頂いた事に感謝しております。祈念式典に参加、朝からとても暑い日でした。原爆投下された日もこんなに暑かったのだろう、それに爆熱が加わりさぞかしつらく苦しかった事だろうと心が痛みました。8時15分、『黙とう』、63年前のこの時から時を刻まなくなつた時計には、悲しくつらい出来事が沢山々埋れていました。このような事が二度とあきない様、祈ると共に風化させる事なく、後世に伝えていかなくてはならないと強く思いました。多感な年頃の中学生を使節団として派遣する市の取組みはすばらしい事だと思えますと同時に、土浦市の小・中学生みんなにビデオなどを通して見せてあげられたらと思いました。

『命の尊厳』言葉や誰かに教えられるのではなく、感じる事ができると思います。また多くの外国の方も見学や参列をしておりました。広島は、戦争で大変な悲劇に遭った事をきちんとお国に帰って話し伝えてほしいとも思いました。



土浦市青年会議所 廣瀬徹隆さん

平和があたりまえとなつていく現在、土浦市の非核平和事業の目的である「非核平和都市の意義」、「平和の尊厳」、「戦争の悲惨さ」を後世に伝えることは重要な意義があり、そして素晴らしい平和事業であると感じました。

資料館や爆心地付近の本川小学校では原爆や戦争の悲惨さを過去の現実として受け止め、平和祈念式では犠牲者のご冥福をお祈りし、黙とうを捧げることができました。

土浦青年会議所の母体である国際青年会議所の創始者は人種や社会的背景、宗教に関係なく、全ての人々にとつてのよりよい平和な世界という、素晴らしい未来像を描いていました。その創始者の精神を受け継ぎ、当土浦青年会議所も地域のリーダーとして子供たちの未来を守るという強い意志と行動力を持ち、これからも各運動をしていきます。

「核兵器は廃絶されることだけに意味がある」とする言葉を、「真理」と平和宣言の中で読んだ広島市長の言葉に同感し、ここに記します。



土浦三中 教諭 上野牧さん

原爆の驚異的な威力を象徴的に語る「原爆ドーム」の写真を見る度に、原爆の残した痕跡の凄まじさを想像し、いつか自分の目で確かめてみたいと思っていました。そして、今回土浦市平和使節団の一員として初めて広島を踏み、写真の枠の外の雰囲気を知る機会をいただきました。

63年前、広島の実夏は、一瞬のうちに暗黒の闇に覆われました。辺り一面は修羅場と化し、全身にやけどを負った人々がさまよい歩き、辺り一面に死者が横たわりました。「原爆ドーム」はビルに囲まれて、当時の面影のままに静かに佇んでいます。その近代化されたビルの下が63年前の修羅場だったのです。そして、「原爆ドーム」だけが奇跡的に残されているのです。「過去」と「現在」が交錯する光景を目の当たりにして、その事実の重みを感じ知らされました。

みずみずしい感性をもつた中学生が戦争の傷跡を自分の目で確かめ、過去の事実を知ることが、これからの平和を考える上で絶好の機会になったと思います。生徒引率の任を解かれた今、私に残されたことは一教師として、8月6日の8時15分に広島平和公園で空を見上げた時に巡らした深い想いを、多くの生徒に伝えることだと思っています。



土浦一中 2年 砂田 琴美さん

私が、この土浦市の平和使節団として、派遣された貴重な3日間の中で特に心に残った事は、平和記念式典への参加です。式典には暑い中いろいろなお祈りから本当にたくさんの方が集まっています。

式典の中で、「戦争は人の心から生まれる」という話がありました。これからは憎しみや悲しみではなく、過去におこったおそろしい原爆、戦争を忘れず人の心から平和が生まれたいな、と思います。



土浦二中 2年 冬 航さん

あれから63年。今の僕達の、幸せにありふれた生活からはとても実感できないようなことを広島で感じさせてくださいました。

平和資料館での広島の写真。その時の何もかもが原爆にのまれ、無にかえってしまったのです。僕はそれを見て呆然となりました。しかし、それは正反対の今の広島。影には人々の努力があった事を感じました。

この三日間は一生記憶に残ることでしょう。その一生の間に、僕ができる限りの人に、この体験で得たことを伝えていこうと思います。



土浦三中 3年 小泉 史弥さん

僕は今回、平和使節団に参加して、今までの戦争に対しての考えが一変する出来事が多くありました。

特に、一日目の資料館でみた被爆者達の数々の遺品が印象に残っています。ボロボロの衣服や黒い爪、こげた髪の毛などをみて当時の人々の苦しみ、強く伝わってきました。そして、同時に平和の大切さを僕達に教えてくれた気がします。

僕は今回、広島に来られたことで、当時の時代と今の時代の違いを知るとともに、平和への喜びを感じる事ができました。僕達が平和だと感じているこの世界に、二度と原爆が使われないように、僕は広島でみて、感じたことを多くの人へ伝えたいと思います。

二度と戦争で苦しむ人や悲しむ人が生まれたいことを願っています。



土浦四中 2年 石澤 薫さん

私はこの三日間でも貴重な体験をする事ができました。

実際に見た原爆の被害は私の想像をはるかに超えたもので、ショックでした。それだけではなく、広島の人々の平和への強い想いを感じる事ができました。



土浦五中 2年 香取 祥子さん

私は以前から、戦争について興味があり、私達の先輩方が体験した悲惨な真実をこの目で確かめてみたいと思います、今回参加させていただきました。

広島に着いてすぐには、思った程戦争の面影はなかったのですが、資料館や原爆ドームを実際に見て、これが一瞬のうちに起こった出来事だと思つくと、原爆の恐ろしさを感じました。

今回学んだ戦争の恐ろしさや63年の時を経て、今、人々の記憶の中から消し去られようとしています。私達は、あの時の悲劇が二度と起こらないように、悲惨な真実を多くの人に語り継がなくてはならないと思います。



土浦六中 2年 斎藤 大幹さん

僕は、今回六中代表として広島に行かせていただきました。広島に着き最初に思ったのは、想像していたイメージとまったく違っていました。63年前からある原爆ドームを見てこんなにひどくして、僕は戦争は絶対に許さないと思つばかりでした。

でもまだ町の至る所には、はっきりと傷跡が残っていました。被爆の人達は、つらい思いなど心の中にあるのによくここまで町をキレイにしてすごいと思いました。そんなふうのりこえたからこそ今の平和な広島になったと思います。だから僕は、日本全国が平和になるようにこれからも頑張りたいと思いました。



都和中 2年 皆川 雅紀さん

今回、一番自分が考えさせられたことは、今、生きていることそれだけでどれだけ幸せかということです。特に平和記念資料館の人の皮ふがやけどでとろとろになっていたり、原爆で広島全体に何も残っていない写真を見て許せなくなりました。次の日の平和記念式典で自分もいっしょに祈りをささげることができて本当に感謝しています。必ず学校のみんなにも今、生きていることがどれだけ幸せかということをお話してあげたいと思います。



新治中 1年 瀬戸 直樹さん

ぼくは広島に行つても印象に残ったものは原爆ドームです。初めて見物した時は、傷だらけの壁を見ている当時の悲惨さを物語っていました。

ぼくたちは土浦市の代表として広島に派遣されたので平和の大切さと命の尊さを多くの人達に伝え、核兵器のおそろしさをわかってもらいたいと思います。

(すべて原文のまま)

